

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年11月6日 (2014.11.6)

【公表番号】特表2014-502968(P2014-502968A)

【公表日】平成26年2月6日 (2014.2.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-007

【出願番号】特願2013-546459(P2013-546459)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/4188 (2006.01)

A 6 1 K 31/426 (2006.01)

A 6 1 K 31/352 (2006.01)

C 1 2 N 9/99 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 31/4188

A 6 1 K 31/426

A 6 1 K 31/352

C 1 2 N 9/99 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月16日 (2014.9.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アルドース還元酵素阻害剤を含む、COPDを有すると診断された対象、COPDの症状を示す対象、またはCOPDを発症するリスクを有する対象におけるCOPDを処置するための薬学的組成物。

【請求項 2】

前記対象が現在喫煙者であるかまたは以前に喫煙者であった、請求項1記載の薬学的組成物。

【請求項 3】

前記アルドース還元酵素阻害剤がプロドラッグとして投与されることを特徴とする、請求項1記載の薬学的組成物。

【請求項 4】

前記アルドース還元酵素阻害剤が吸入または滴注により投与されることを特徴とする、請求項1記載の薬学的組成物。

【請求項 5】

前記アルドース還元酵素阻害剤が経口投与されることを特徴とする、請求項1記載の薬

学的組成物。

【請求項 6】

前記アルドース還元酵素阻害剤が特異的阻害剤である、請求項1記載の薬学的組成物。

【請求項 7】

前記アルドース還元酵素阻害剤が、カルボン酸、ヒダントイン、ピリダジノン、またはこれらの薬学的に許容される誘導体である、請求項6記載の薬学的組成物。

【請求項 8】

前記アルドース還元酵素阻害剤が、フィダレスタット、ソルビニル、エパルレスタット、ポナルレスタット、メトソルビニル、リサレスタット、イミレスタット、ALO-1567、ケルセチン、ゾポルレスタット、AD-5467、NZ-314、M-16209、ミナルレスタット、AS-3201、WP-921、ルテオリン、トルレスタット、EBPC、またはこれらの薬学的に許容される誘導体である、請求項7記載の薬学的組成物。

【請求項 9】

前記アルドース還元酵素阻害剤がフィダレスタットである、請求項8記載の薬学的組成物。

【請求項 10】

アルドース還元酵素阻害剤を含む、現在喫煙者であるかまたは以前に喫煙者であった対象における、喫煙に関連した健康リスクを処置するための薬学的組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

[本発明1001]

COPDを有すると診断された対象、COPDの症状を示す対象、またはCOPDを発症するリスクを有する対象へ、治療的に有効な量のアルドース還元酵素阻害剤を投与する工程を含む、対象におけるCOPDを処置する方法。

[本発明1002]

前記対象が現在喫煙者であるかまたは以前に喫煙者であった、本発明1001の方法。

[本発明1003]

前記アルドース還元酵素阻害剤がプロドラッグとして投与される、本発明1001の方法。

[本発明1004]

前記アルドース還元酵素阻害剤が吸入または滴注により投与される、本発明1001の方法。

[本発明1005]

前記アルドース還元酵素阻害剤が経口投与される、本発明1001の方法。

[本発明1006]

前記アルドース還元酵素阻害剤が特異的阻害剤である、本発明1001の方法。

[本発明1007]

前記アルドース還元酵素阻害剤が、カルボン酸、ヒダントイン、ピリダジノン、またはこれらの薬学的に許容される誘導体である、本発明1006の方法。

[本発明1008]

前記アルドース還元酵素阻害剤が、フィダレスタット、ソルビニル、エパルレスタット、ポナルレスタット、メトソルビニル、リサレスタット、イミレスタット、ALO-1567、ケルセチン、ゾポルレスタット、AD-5467、NZ-314、M-16209、ミナルレスタット、AS-3201、WP-921、ルテオリン、トルレスタット、EBPC、またはこれらの薬学的に許容される誘導体である、本発明1007の方法。

[本発明1009]

前記アルドース還元酵素阻害剤がフィダレスタットである、本発明1008の方法。

[本 発 明1010]。[本 発 明1011]前記アルドース還元酵素阻害剤が1～800mg/日の用量で投与される、本発明1010の方法。[本 発 明1012]現在喫煙者であるかまたは以前に喫煙者であった対象へ、治療的に有効な量のアルドース還元酵素阻害剤を投与する工程を含む、喫煙に関連した健康リスクを処置する方法。

本発明のその他の目的、特色、および利点は、以下の詳細な説明から明らかになるであろう。しかしながら、本発明の本旨および範囲に含まれる様々な変化および修飾が、この詳細な説明から、当業者には明らかになるため、詳細な説明および具体例は、本発明の具体的な態様を示しているが、例示として与えられているに過ぎないことが理解されるべきである。